

## 令和元(2019)年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	名古屋大学		
プログラム名称	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス 卓越大学院		
プログラム責任者	門松 健治	プログラムコーディネーター	勝野 雅央

### [採択理由]

超高齢化・少子化社会では、個別化医療から個別化予防に転換することが求められるが、それを実現するためには、分子レベルから人間社会レベルに至るまでの多階層における生命科学ビッグデータを解析することによって病態理解と予防法開発を行うことが不可欠である。このような研究における成果の社会実装を可能にする人材の育成を目指すのが本プログラムであり、情報学と生命医科学を駆使して個別化予防の開発と社会実装を実現することのできる研究者・行政官・アントレプレナーの輩出を目的として、病態の解明からトランスレーショナルリサーチまでを意識し考え抜かれた教育カリキュラムを組んでいる点は高く評価できる。

特に、東海地域に根ざしたローカルアライアンスとこれまでの教育研究における連携実績を生かすことによって優れた海外教育研究機関を巻き込んだグローバルアライアンスを基盤とした「グローバルアライアンス」を形成しながら、個別化予防の開発とその社会実装のための教育を実施する点には卓越性が認められる。既に実践中のジョイント・ディグリープログラム (JDP)、Global Alliance of Medical Excellence(GAME) 等を本プログラムに組み込む一方で、東海地域の特性も生かしたものとなっており、東海地域発信の国際的卓越性を兼ね備えたプログラムであると言える。また、そのベースとなる研究領域では既に優れた実績を上げ、基礎医学から臨床医学研究まで国内有数の教員組織を有している上に、東海地区の連携先機関からも関連する各分野の著名な研究者が参画しており、プログラム担当者の構成は厚みのあるものとなっていると評価できる。

また、従来の情報学分野と生命医科学分野との連携は、医療におけるデータを解析するという一方向になる傾向にあったが、本プログラムでは双方向の協働を目指していることから、個別化予防に関して高い成果が期待できる。

学長のリーダーシップの下で既に大学院改革が進行中であり、本プログラムもその中に的確に位置付けられていることから、今後の展開も期待され、継続性・発展性の観点からも評価できる。

情報処理技術を利用して実績を上げている多彩な生命医科学分野の研究者を中心として構想された実現可能性の高いプログラムであり、今日必要とされている卓越した人材の育成が十分に期待できる。